

インシュアテックイノベーション

連載第4弾

ポスト資本主義・AI時代に 残る仕事④

給付金支払いの生保エコシステム実現

アイリックコーポレーション(IRRC)フェロー
保険・ヘルスケアDX担当 畔柳主税

保険業界のDXが進む中、診療明細A-I-OCRを核とした給付金支払いを可能とする生保エコシステムが誕生した。共創の精神が折り重なることで、奇跡的な連鎖を生み、業界全体の効率化と進化をけん引する事例を紹介する。

IT部門の共同体「ユーザー会」での出会い

私の共創のパートナーはアシスト社の根津氏である。彼は保険会社のIT部門を顧客に持ち、顧客の共通課題を解決するためのユーザー会を立ち上げていた。この会では、各社のニーズを共有し、役立つITソリューションをリサーチする活動が進められていた。

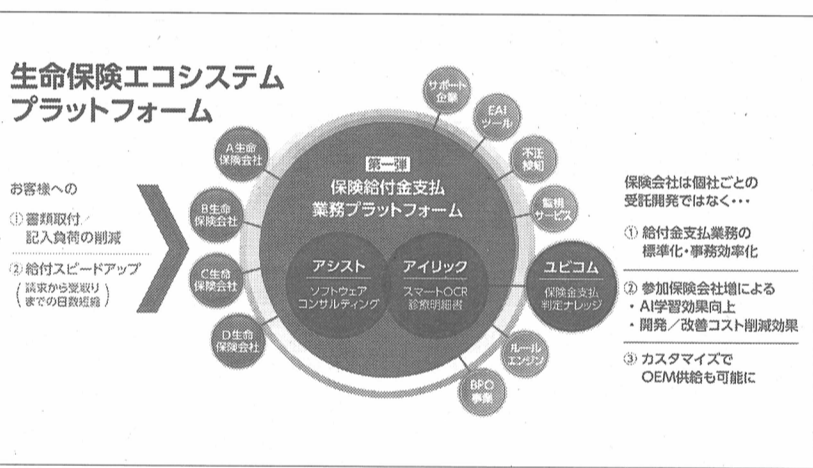
一方、弊社のA-I-OCRは保険証券を対象にしたソリューションで実

績を積み上げていたが、「次どの領域で何をすべきか」が課題となっていた。その中で注目したのが健康診断書A-I-OCRである。「契約引受けや健康増進型保険に需要があるはずだ」と考え、保険会社を回っていた際に、チューリッヒ生命の金子部長(当時)との出会いが転機となった。

診療明細A-I-OCRが注目を集める

金子部長に導かれ、アシスト社のユーザー会に招待されたことが、根津氏やメディアケア生命の奥村氏との出会いを生んだ。この場で健康診断書A-I-OCRをプレゼンしたところ、非定型帳票への強みが高く評価され、一方で、「診療明細の

アシストとユビコムとの奇跡的な縁が結実



生保エコシステムのイメージ

「POC(概念実証)を簡単に試してほしい」とのPOCは、わずか3週間で想定外の方向性が示され、間という短期間で実施さ

縁の連鎖で共創のピースが完結

2020年4月、新型コロナウイルスの緊急事態宣言により、保険会社の検診が一時停止する事態が発生した。しかし、こうした停滞の中で新たな共創のピースがそろった。自動車保険証券での経験から、A-I-OCRソリューションの実現にはコード化を担う専門ノウハウを持つパートナーが必要不可欠であり、その探索を進めていた。

銀行業界への応用も模索

現在、給付金支払いを中心とした生保エコシステムは、導入開発を含め5社の保険会社へ広がりをみせている。さらに、BPO会社を通じたOEM供給や新規導入予定の企業も増えており、その影響力はますます拡大している。この実現は、アシスト社のユーザー会という保険会社のIT部門の共同体と、アシスト社・弊社・ユビコム社によるソリューション共創の融合によるものである。

現在、根津氏とは銀行業界への応用も模索している。たとえば、融資業務における決算書や確定申告書のA-I-OCR化や、生成AIによるデータ正規化を経て各銀行のRの開発着手を宣言し、5月にはオンラインセミナーを開催したところ、探り求めていたパートナーが参加してくれた。それが、医療機関のレセプトチェックシステムで高いシェアを持つユビコム社である。ユビコム社は、私の縁の深いフィリピンのIT技術者を育てる企業でもあり、その誠実な姿勢に信頼を築くのは容易だった。こうして縁が連鎖し、20年11月にはアシスト社、ユビコム社との連携による生保エコシステムの立ち上げに至ったのである。

こうして新たな挑戦は、単なる効率化にとどまらず、保険業界のDXをさらに深化させる契機となるだろう。

【畔柳主税(あぜやなぎちから)氏のプロフィール】
静岡県富士市生まれ。東工大卒。石油会社のIT部門から2008年より保険業界向けのITソリューション・DXの企画・営業に携わる。持ち味は企業コラボ。